



○リウマチ膠原病科の概要

1. リウマチ膠原病科の特色

- 関節リウマチ、全身性エリテマトーデスを始め、免疫異常を背景とした多臓器障害を有する膠原病など、当科で行われている診療は、特定の臓器に限定せず常に全身を対象とするという特徴があげられます。全身性の疾患であるが故にカバーする範囲は実に広く他の内科診療科とは最も異なる点です。当科においては、リウマチ性疾患、膠原病の臨床を経験するのは勿論、generalist としてのトレーニングや全身管理を学ぶことが可能です。また、関連の深い診療科とも定期的に合同カンファレンスを開き、診療能力向上に努めています。
- 病因に自己免疫が関与していること、治療に免疫抑制療法を駆使するため、近年急速に進んでいる免疫学に触れる機会が多く臨床免疫学を学ぶことができます。特に生物学的製剤の使用など基礎免疫学の知識と技術の臨床応用という新時代が到来しており、新規薬剤の登場など大変にホットな分野です。
- エビデンスの上に立脚し、さらに病態を把握しながら個々の症例に合致した最適な治療方針を常にさぐる努力を惜しまないことをモットーにしています。
- 誠実で、透明性の高い医療を目指しており、チームワークが良く、医局員がやる気にあふれ、雰囲気がとても良い科です。
- リウマチ専門医は日本中でもまだ少数で、需要の多さに全く追いつけない状況です。
- 基礎研究や臨床研究を行える環境にあり、一般大学院生または社会人大学院生として一定期間研究に従事し、physician scientist を目指す医師が多くいます。
- プログラムの特徴：国際的に通用するリウマチ医を育成します。整形外科やリハビリテーション科、その他関連診療科へのローテーションも行なえます。当科のベッド数は国内の大学病院リウマチ科としては1、2位を争う多さで、数多くの症例を経験することが出来ます。内科診療科の中でも特に専門性が高く、同時に全身の診療能力が培われる点が特徴で、将来の開業、市中病院勤務などで断然有利です。

2. 年間入院患者数（平成 25 年 1 月～ 12 月の統計） 484 名

入院患者内訳（病名別）

関節リウマチ	171	全身性エリテマトーデス	103
強皮症	51	シェーグレン症候群	39
血管炎症候群	43	多発性筋炎・皮膚筋炎	33
不明熱	12	悪性関節リウマチ	11
血清反応陰性脊椎関節炎	16	Behcet 病	10
混合性結合組織病	13	成人 Still 病	6
サルコイドーシス	4		
その他	78		

年間外来患者数（平成 25 年 1 月～ 12 月の統計） 20,379 名

外来と入院合わせた生物学的製剤使用症例数 199 人

エンブレル	53 人	アクテムラ	50 人	レミケード	48 人		
オレンシア	24 人	ヒュミラ	11 人	シンポニー	8 人	シムジア	5 人

3. 診療スタッフ

三村 俊英（教授・診療部長）リウマチ性疾患、膠原病、腎臓病、臨床免疫学
舟久保ゆう（准教授・診療副部長・研修指導医）リウマチ性疾患、膠原病、動脈硬化
佐藤浩二郎（准教授・病棟医長・研修指導医）リウマチ性疾患、膠原病、免疫学
荒木 靖人（講師・医局長・外来医長）リウマチ性疾患、膠原病、臨床免疫学
横田 和浩（講師）リウマチ性疾患、膠原病、臨床免疫学
梶山 浩（助教）リウマチ性疾患、膠原病、腎臓病、臨床免疫学
吉田 佳弘（助教）リウマチ性疾患、膠原病、臨床免疫学
立花 秀介（助教）リウマチ性疾患、膠原病、臨床免疫学
井熊 大輔（助教）リウマチ性疾患、膠原病、腎臓病
和田 琢（助教）リウマチ性疾患、膠原病、臨床免疫学（米国留学中）
矢澤 宏晃（助教）リウマチ性疾患、膠原病
中尾 嘉修（助教）リウマチ性疾患、膠原病
松田 真弓（助教）リウマチ性疾患、膠原病

4. 臨床研修プログラムの目的と特色

内科学会認定内科医とリウマチ専門医の資格を取得し、総合内科専門医の資格取得を目指す。

- 膠原病が全身性疾患、多臓器疾患であることから、全身の診察法、病態生理の検討、輸液・呼吸管理・感染症管理など全身管理を経験しながら医師としての基本を修得することが出来る。
- 多くが慢性疾患であることから、全人的に患者さんを理解する必要があり、医師として是非とも必要な人間性とコミュニケーション能力が養われる。
- 免疫学的検査を繁用し、副腎皮質ステロイドホルモンを含む免疫抑制療法を駆使するため臨床免疫学を理解し修得するのが容易である。生物学的製剤も使用し、生体内でのダイナミックな免疫系の調節を経験することが出来る。
- 全身性疾患の診療にあたるため、研修で回った科で研修し損ねたり、不十分な知識を補充・復習することが可能であることも多い。
- 他科で修得した技能を存分に応用することも可能である。
- 当院整形外科ローテーションが可能（今後は専門医取得に必須）。
- 女性医師の復職プログラムが充実している。
- 卒後3～6年を対象とする。

5. キャリアパス 日本内科学会認定内科医

日本内科学会認定総合内科専門医

日本リウマチ学会専門医

日本アレルギー学会専門医

日本東洋医学会専門医

医学博士

国内外留学

内科系シニアレジデントコース: (国際的に通用するリウマチ医育成コース)

内科全般、サブスペシャリティのトレーニング: 総合内科専門医、リウマチ専門医、その他専門医資格取得可能

